

CAD で描いた図形 (DXF データ) を加工形状と仮定して、NC プログラムを生成します。※図形は、LINE (線分)、ARC (円弧) など考慮しています。



• NC < D W の画面 構成

図 1-1 に NC < D W の画面構成を示します。

左上に NC プログラムの生成用の設定条件があり、左下に作成した NC プログラムを表示する領域があります。DXF ファイルを読み込んだ後、左中央の「設定」のボタンを押すことで、NC プログラムを生成する仕組みです。生成された NC プログラムのワイヤ軌跡は、右側の描画領域に表示されます。



図 1-1 NC < D W の画面構成

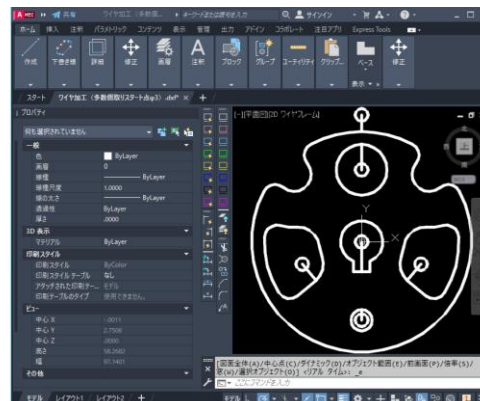
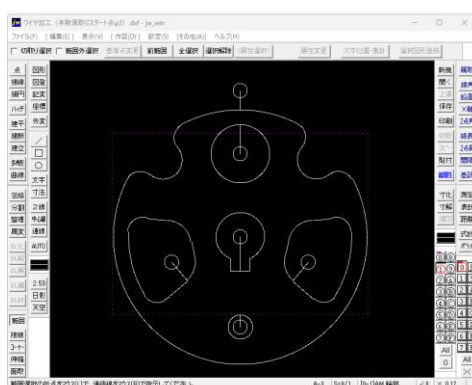
• NC < D W での NC プログラムの作成の流れ

1. お使いの CAD ソフト (JWCAD や AutoCAD など) で、小円から始まる図形 を作図します。

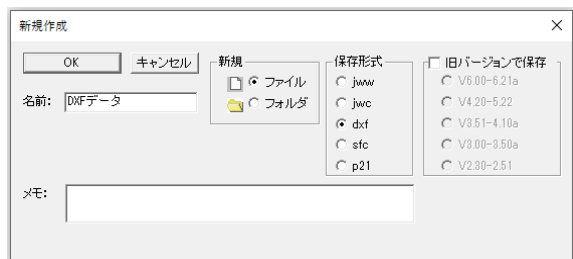
※ 作図した図形データの情報を加工基準としているため、作図する位置 (原点) に気を付けて下さい。

JWCAD

AutoCAD



2. CADデータを DXF形式 で保存します。



3. DXF形式のデータをNC<D に読み込ませます。

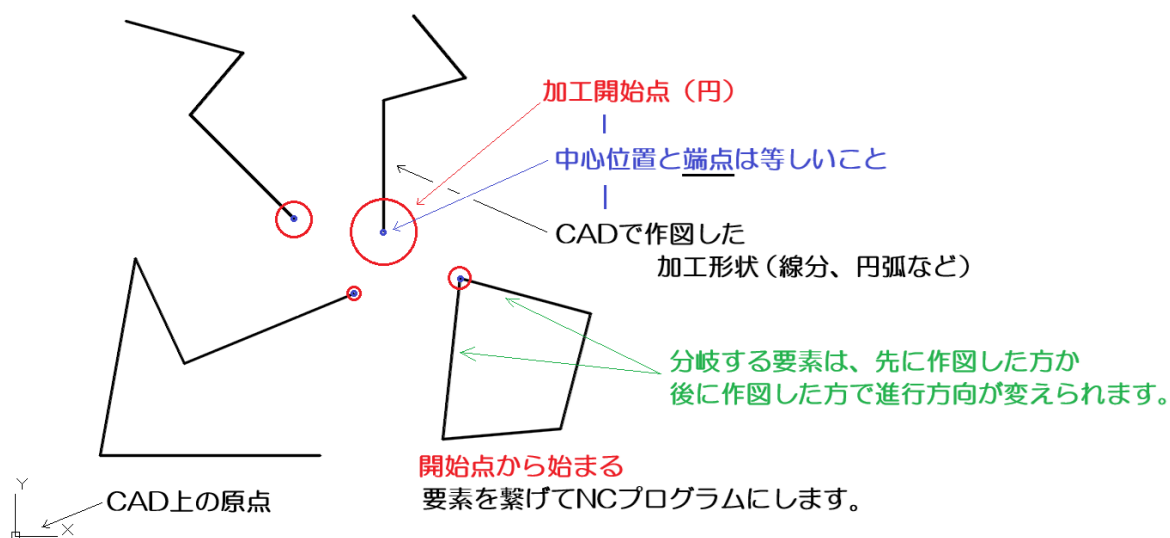


4. 設定を変更して、適当なNCプログラムを作成します。（「変換」を押すと設定が反映されます。）



5. 作成した NC プログラムを保存して、実際の NC 工作機械に入力して使用します。 以上

• NC<D W での 加工開始点（円）と加工形状（線分、円弧）について

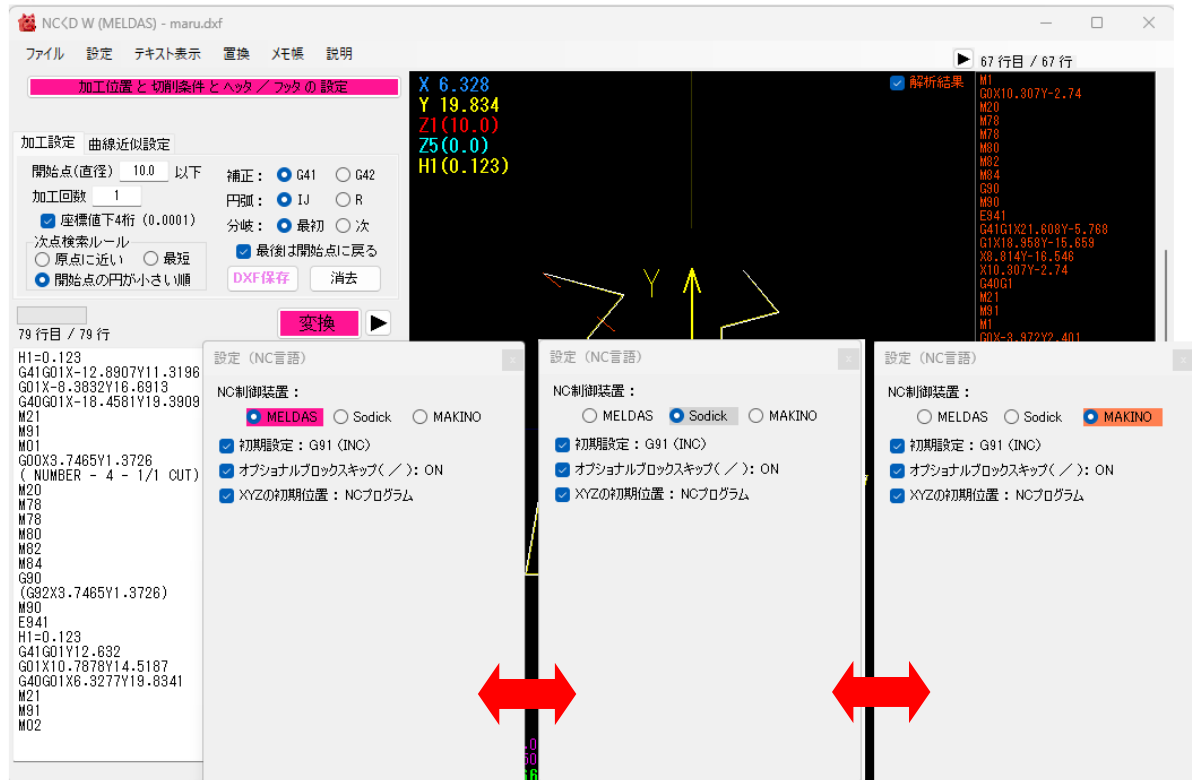


※ 加工形状は、繋がった要素（線分、円弧など）であることが必要です。

※ 作図した形状を消去して、書き直すと「後に作図した方」になります。

• NC < D W の 主な 設定

- MELDAS ⇔ Sodick ⇔ MAKINO 変更 「 設定 → NC 言語 → NC 制御装置 」



- 加工位置 と 加工条件 と ヘッタ／フッタ の 設定

